



◇オーストラリアの
ラジオ・ヘリオグラフ

1 はオーストラリアのナラブライに建設中のラジオヘリオグラフで、直径 3 km の円周上に 13 m のバラボラ 96 個を等間隔にならべ、これを干渉計のように使って、太陽面の輝度分布をだす。

(181 頁より)

間も短い、しかし星の中で実際に起こっていた核反応の結果を直接観測できるのはこういう星に限られるので非常に重要である。発見されているもののうちで解析されたのは 1/3 にもならないので残りのものも早く解析することが望まれる。また、水素がみえている水素のない星は、ヘリウム星の数個と、ものすごい星 HD 101065 だけであるが、こういう星はこれからでもかなりの数発見されることは予想される。

連星系の水素欠乏星は現在知られているのは 2 つだけであるが、シリウス、プロキオンなどの伴星等はこういうものが取縮してできたものか、連星の場合の特別な進化はどういうときに起こり得るかなど面白い問題である。



◇諏訪と松本の観測所

2 は諏訪天文同好会の人工衛星観測所、諏訪市城南小学校にある。建物の左側が観測室、右側が休憩室で、観測室の屋根は二つに分かれ、南と北に移動する。背景の山は霧が峯の連山
 3 は松本郊外の塚原学園の天文台で、5階の上に6mと3mの二つのドームがある。4はこのうちの6mのドームを背にした台長青木正博氏。5は6mドームに納めた60cm反射望遠鏡、鏡は木辺鏡で焦点距離330cm。架台は西村製、ニュートン、カセグレン両式兼用、また3mドームには21cm反射望遠鏡を入れている。

